

◆流通小売業 2016年の売り上げ見通し！

常に精度の高い信頼できる経済指標を提示してくれている、矢野経済研究所から2016年の流通小売業の売り上げ予測が発表された。それによると小売業では2015年対比で98.4%で140兆7,416億円(-1.6%)のマイナスで、スーパー・マーケットは97.6%で12兆9,741億円(-2.4%)のマイナスと予測、一方コンビニは11兆6,854億円で105.9%のプラス、百貨店も7,048億円とプラス、外国からの来日客が売り上げに貢献している。



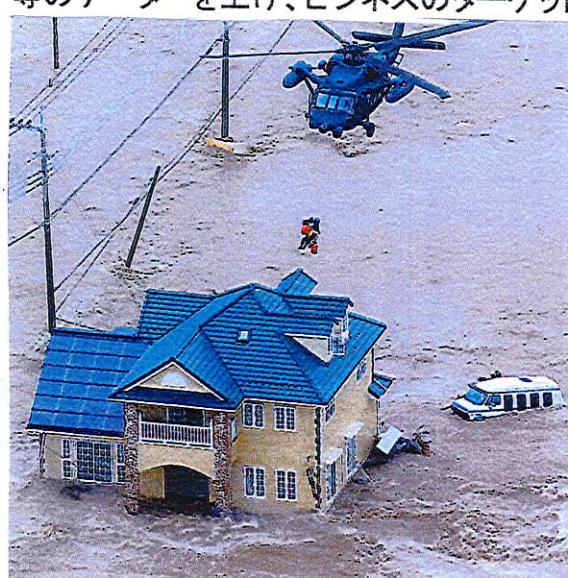
◆新たなビジネス市場現わる！

高齢者の急増拡大で、新たなビジネス市場がクローズアップされている。この度「エンディング産業展2015」が今年12月8日(火)～10日(木)東京ビッグサイトで、第1回目の展示会が開催される。テーマは葬儀、埋葬、供養などの終活に関する設備、機器、サービスの専門展で、食品容器メーカーの北原産業が会場膳や弁当箱などを出展する。



◆リスペック、トップステージ会を開催！

リスペックは11月17日、東京、台場のホテル・グランパシフィックで、全国の各地区を代表する有数な包材問屋133社のオーナーを集め「第15回トップステージ会」を開催した。リスペックの大松専務からは今期は增收増益との発表があった。当会、会長を務める「アロン・トレーディング㈱の穂積会長」から約20分に渡る発信の中で、急速に変化する時代、消費者のライフスタイルや人口動態の変化、景況等を踏まえ、今後求められる業態について、サービスの先進化、変化対応型の企業が競争激化の時代を生き残るものとの発言があった。過去10年でチェーンストアーの企業数は24%、店舗数9%、従業員数15%といずれもマイナスだが、特筆すべきは店舗の大型化が進み店舗面積は23.1%も増加、中小のチェーンストアーは大手企業に集約されている事実が鮮明となった。また2020年までの5年で人口は0歳～14歳の年少で125万人が減り、生産年齢と言われる15歳から65歳で341万人減少、逆に65歳以上の方が217万人も増えるとしている等のデータを上げ、ビジネスのターゲットを的確に変化させていくべきだと発信した。



◆加速する温暖化！④

2015年9月10日栃木、茨城を豪雨が襲い茨城県常総市で鬼怒川の堤防が決壊し大変な被害がでた。近年、ゲリラ豪雨が増えている原因にはやはり地球温暖化やヒートアイランド現象等がある。東京や大阪など大都会では、この100年で3度も上昇、アスファルトやコンクリートに覆われた都会では熱のこもった都会の地表は湿った空気を高温にし、積乱雲の発生をより活発にし、また都市のビル群や地形の影響等複数の要因によってゲリラ豪雨が頻繁に引き起こされる。